

ダイアローグ — 交信する身体

作家の言葉

Power of One 明鏡止水

この夏が終わってしまうかと思うと、悲しい気持ちになります。大濠公園のセミの合唱、スタジオに向かう途中に出会う亀、福岡城址の手前に咲く大きな蓮の花、扇風機がフル稼働していてもみんなの額をつたう汗の雫。この景色を非常に恋しく振り返ることになるだろうと、すでに感じています。

これは私たちにとって非常に大きな挑戦でした。かぎ針を本格的に使うのが初めてという多くの方に、言語の違いや短期間という制約のなか、しかも本当に暑い季節に、何種類もの複雑な編み方を伝授する必要があったからです。何週間にもわたり定期的集まることで、参加者たちはひとつのゴールを目指して共同制作をするというコンセプトに馴染んでいきました。各々が作品の作り手であるという認識だけでなく、みんなを結ぶビジョンを共有し、関係性を育むことで、私たちは外国から来たアーティストという立場から、先生となり、やがて友人になっていきました。

このプロジェクトは、アートと工芸と人々とのつながりを生み出し、そしてそれらを結び付けるという物理的な表明です。言語の壁、異なるスキルや文化、年齢の違いは徐々になくなり、みんなの努力、決意、そしてたくさんの笑いに取って代わられました。ここで築かれた友情の絆は、作品よりもはるかに長く残るでしょう。

私たちをつなげてくれた作品は、制作に携わったすべての人が注いだ愛と献身をあらわす歓喜のエンブレムとして、ここに完成しました。作品は私たち一人ひとりが変化を起こす力を持つことを示しています。「Power of One(個の力)」、あるいは「Power as One(個としての力)」と呼ぶべきこの作品は、福岡の人々の協力なしには実現することができませんでした。

このプロジェクトに関係するすべての方のご協力に感謝いたします。作品の完成に向けて力を注いでくださったボランティア、設営チーム、アジア美術館、福岡市役所の皆さん、そしてここにお名前を載せることが叶わなかったすべての方のご尽力の賜物です。私たちはすっかり福岡に愛着を感じています。いつかまたここに戻ってくることを約束します。

ジン・チェ&トーマス・シャイン(チェ + シャイン・アーキテクト)